

水の大切さを学び感謝の心

水道週間に合わせ各市水道事業所で各種行事

6月1日から7日までの水道週間に合わせて、水の大切さと水道への関心を高めてもらうために、さまざまな行事が行われました。

記念植樹は1日、登米町羽沢の森林公園で行われ、登米中3年生の生徒55人が参加しました。

登米町森林組合の職員が、森林には砂防や温暖化防止などの効果があることを説明。植樹の方法を指導した後、作



森林組合の職員から植樹の効果や方法を聞く生徒たち

業が始まりました。

植樹したのは、オオヤマザクラの苗木60本。生徒たちは、あらかじめ等間隔に印が付けられていた個所に、一本一本丁寧に植えました。

登米中3年の高橋紗さん「あまり体験できないことなので、とても勉強になりました。わたしたちが植えた苗木には、病気になるまいですぐと育ってもらいたい」と話していました。



大きく育つように一本一本丁寧に植樹しました



登米幼稚園と登米保育園の園児によるヤマメ稚魚放流

ヤマメの稚魚放流は5日、北上川の登米町水辺プラザ船着場で行われ、登米幼稚園と登米保育所の年長児23人が参加しました。

園児たちは、救命胴衣を着用し、いつまでも魚が住めるきれいな川であるようお願いを込めながら、ヤマメの稚魚約4千匹を放流しました。

そのほか、浄水場の見学会や北上川河川敷の清掃作業なども行われました。

輝かしい芸術文化の祭典

第1回登米市民文化祭

第1回登米市民文化祭「展示発表の部」(市文化協会主催)が6月2、3日の両日、中田生涯学習センターで開催されました。

会場となった同センターは、旧中田町立桜場小学校の校舎



卓越した作品がたくさん展示された市民文化祭

を改修し4月にオープン。駐車スペースに限りがあるため、市役所中田庁舎からシャトルバスを運行して来場者を迎えました。

展示された作品は、文化協会、老人クラブ連合会の会員や迫養護学校の児童生徒らによる盆栽、陶芸、華道、絵画、書道、写真など。はつとや米粉パンなどの地域食材の販売も行われました。

また、自動体外式除細動器(AED)やアメリカンフットボールの体験コーナーもあるなど、子どもからお年寄りまで多くの人でにぎわいました。

なお、10月13、14日には、舞踊や民俗芸能などが発表される「ステージの部」を、登米祝祭劇場で開催します。



会場には市内から大勢の人が来場しました

不安や希望を絵に表現

北上川水系高校生絵画展 IN登米市2007

「北上川水系高校生絵画展 IN登米市2007」の表彰式が6月9日、登米祝祭劇場で開催され、受賞者や関係者ら約30人が参加しました。

絵画展には、佐沼や石巻市女、涌谷など県北、沿岸地方



高校生の力作がたくさん展示された絵画展

の6校から43点が応募され、大賞・県知事賞1点、優秀賞2点、優良賞3点、佳作6点を選定。佐沼高2年の石井未来さん(栗原市)が最高賞の大賞・県知事賞に輝きました。

石井さんの作品「サナギ」は、青春時代の不安や希望、屈折などが入り混じった葛藤を表現。人物のデッサンが評価されている受賞となりました。

石井さんは「作品を評価していただいた人に感謝したい。先輩方と同じ賞が取れてうれしいです」と話していました。

市内の受賞者は次のとおりです(敬称略)。

- 【優秀賞】細川未来(佐沼高)
- 【優良賞】門脇由佳、高橋咲江(以上佐沼高)
- 【佳作】岩崎里沙子(佐沼高)

大地震への備えは万全に

市災害対策本部設置運用訓練／総合防災訓練

近い将来、高い確率で発生が予想されている宮城県沖地震に備え、市災害対策本部設置運用訓練が6月4日、石越防災センター(石越総合支所)で行われました。

市長や副市長、市幹部職員ら約40人が参加。宮城県沖を震源とするマグニチュード7・5の地震が発生し、市内各地で道路や鉄道、水道、電気、通信などのライフラインが不通となり、建物の倒壊、道路に亀裂などが生じた想定して進められました。

訓練では、無線などを使って市内の被害状況を収集。的確な指示が出され、迅速な応急対策がとられました。

また、市職員の非常参集訓練も同時に実施。地震発生後、指定勤務地に出勤する途中に全職員が通勤区間の被害状況を確認しました。

6月10日には、昭和53年の宮城県沖地震を教訓とする県民防災の日(12日)に合わせて

近いうち、高い確率で発生が予想されている宮城県沖地震に備え、市災害対策本部設置運用訓練が6月4日、石越防災センター(石越総合支所)で行われました。

市長や副市長、市幹部職員ら約40人が参加。宮城県沖を震源とするマグニチュード7・5の地震が発生し、市内各地で道路や鉄道、水道、電気、通信などのライフラインが不通となり、建物の倒壊、道路に亀裂などが生じた想定して進められました。

訓練では、無線などを使って市内の被害状況を収集。的確な指示が出され、迅速な応急対策がとられました。

また、市職員の非常参集訓練も同時に実施。地震発生後、指定勤務地に出勤する途中に全職員が通勤区間の被害状況を確認しました。

6月10日には、昭和53年の宮城県沖地震を教訓とする県民防災の日(12日)に合わせて



的確で迅速な応急対策がとられた災対本部設置訓練



総合防災訓練では衝突車両から負傷者を救出しました

市内各地で6・12総合防災訓練や消防演習が行われました。

訓練のメイン会場となった吉田運動場では、市消防団米山支団、婦人防火クラブ米山支部、消防署などの関係者や一般住民など約550人が参加しました。

訓練は、午前8時30分の防災行政無線のサイレンを合図に開始。一般住民や知的障害者施設「はんとく苑」、特別養護老人ホーム「さーらの樹」

の利用者が市の指定避難場所となっている会場へ速やかに避難しました。

倒壊した建物からの負傷者救出や応急手当、初期消火、炊き出しなどが行われ、参加者は本番さながらに真剣な表情で取り組みました。

また、消防署と宮城県警広域緊急援助隊による、衝突車両救出訓練も実施。車両に取り残された負傷者を、隊員が素早い対応で救出しました。